

(様式2)

## 令和4年度地域とともにつくる魅力ある県立高等学校支援事業【実施状況報告書】

学校名：田尻さくら高等学校

1 テーマ・事業名 テーマA・「さくら咲く 伝統文化 夢プラン 2022」

2 目的 本校生徒は入学時点でさまざまな学習歴を持っているが、特に小学校あるいは中学校において不登校に陥ったことによる学習面での遅れやコミュニケーション能力及び協調性等の未発達を抱えた生徒が多い。入学後も、所属クラスや部活動がなく、授業も個別の時間割で受ける本校のシステムから、結果的に他者との関係性を構築できないままの者もいる。

このような現状を踏まえ、生きていく上で欠かせない他者や地域社会とのつながりを持つ場、共感する姿勢を醸成する場等を設け、将来的に社会で活躍する上での資質や能力の向上を図ることが目的とする。

3 組織

- ・地域連携推進委員会を組織し、地域に開かれた学校づくりを話し合う（7名）  
田尻高校同窓会会長，宮城学院大学非常勤講師，東北工業大学非常勤講師，校長，教頭，主幹教諭
- ・伝統文化関連教科連絡会を組織し，事業の計画，運営にあたる（8名）  
教頭2名，教諭5名（総務部担当・国語科・芸術科〔美術・音楽〕・家庭科）及び講師3名  
（「茶道入門」担当・「書道」担当・「陶芸」担当）

4 事業内容

実施項目 (実施時期)	ねらい・目標	実施状況	成果	今後の課題	自己評価
① 七夕書道展 (7月) 書き初め書道展 (1月)	書に親しむことで豊かな心情を育む。また，書写や篆刻等の様々な活動を通して，個性や能力の伸長を図るとともに，書を生活に生かし，書を学び続ける意欲を育てる。	本校生の作品のみならず，地域の小中学生，地域の方々の作品を「さくらギャラリー」に展示して鑑賞してもらった。 	七夕書道展では，生徒が作成した七夕飾りとともに展示することができ，ギャラリーを彩っていた。近隣の小中学生の作品を展示することで，コロナ禍ではあったが地域連携の意識を醸成することができた。また，校外の作品に触れることで書道に関する興味・関心を育むことができた。	次年度から，社会人聴講生の募集を再開する。地域の方の作品がまだまだ少ないため，書道を選択する聴講生の作品を活用し，一般の方の作品を多くしていく事で，地域との交流の場となるようにしていきたい。	B

<p>② 手品公演 (7月) 南京玉すだれ (2月)</p>	<p>日本の伝統的芸能を鑑賞することで、技のすばらしさや、巧みな話術から生きる力及び心の豊かさを感じ取る。</p> 	<p>7月末の文化祭時に、地域在住の手品愛好家を招き、2月末には、宮城県内でも珍しい南京玉すだれの演者を招き、演技を披露していただいた。</p>	<p>ICT環境が目覚ましく進歩している中、本物を生で感じる経験が少なくなっている。今回手品や、南京玉すだれを実体験することで、感性を磨くことができた。また南京玉すだれの演者の方からは、自己表現する方法を学ぶことができた。</p>	<p>今後も、本物に触れる機会を多くし、生徒の生きる力や、心の豊かさを育んでいきたい。また、自己肯定感を高め、自己表現する楽しさを学べるような企画をしていきたい。</p>	<p>A</p>
<p>③ 天旗づくり (11月)</p>	<p>天旗づくりを通して、凧づくりの伝統文化に触れ、その価値を知る。また、凧づくりの技術や歴史を学ぶことで、日本人としての誇りと自信を育む。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止。</p>			



<p>④ 高校合同陶芸展 (11月)</p>	<p>無から有を生むことの素晴らしさや、大切さを学ばせ、作品を通して長い伝統を持つ陶芸器文化の粹に共感させる。</p>	<p>古川黎明高校及び中新田高校から作品をお借りし、本校生の作品と合わせて高校合同陶芸展を「さくらギャラリー」において開催した。</p> 	<p>各高校の協力のおかげで開催することができた。校内だけでなく他校の同世代の作品に触れることで、陶芸の奥深さを知り、豊かな感受性を醸成することができた。</p>	<p>今後、高校のみならず、近隣の支援学校からも作品をお借りし開催していきたい。 陶芸の作品は、破損の恐れもあるため、慎重な管理が必要である。管理方法を今後も徹底していきたい。</p>	<p>B</p>
<p>⑤ 交流茶会 (1月) 新春茶会として実施</p>	<p>日本の伝統文化である茶道を通して、お茶の心である「和敬清寂」を理解させるとともに、礼儀作法を学び、おもてなしの心を育てる。</p>	<p>6月は、新型コロナウイルス感染症の拡大したため、1月に「新春茶会」として実施することができた。過去に社会人聴講生で履修していた方や、地域の方に参加していただくことができた。</p> 	<p>コロナ禍ではあったが、感染症対策を万全にし、多くの地域の方に参加していただいた。生徒が授業で学んだ礼儀作法を外部の方に発表することで、社会性を養い、自己表現するいい機会となった。参加した方々からも、感謝の声を多数いただいた。</p>	<p>コロナ禍のため制約があり、茶道本来の形を少し変更しての実施だった。 次年度は、さらに多くの方に、生徒の様子を見ていただけるようにしていきたい。</p>	<p>A</p>

<p>⑥ ギャラリー展示 (通年)</p> <p>さくら通信 (通年)</p>	<p>校舎内のオープンスペース「さくらギャラリー」において、地域の方々の作品や交流のある学校の生徒の作品を展示し、互いに交流を深める。</p> <p>本校の活動を紹介した広報誌を作成し、地域との共生を目指す。</p>	<p>上記の企画以外にも、クリスマスツリーの展示、折り紙愛好会の作品展示、JRC愛好会の募金活動のポスター展示、県書道展入選作品の展示、写真愛好家わいどの作品展示など年間を通じてギャラリー活用した展示を行った。</p> <p>学校行事や科目履修生再開に向けた案内等を紹介した「さくら通信」を各月と、臨時に発行し、近隣の小中学校や近隣地域全戸に配布した。</p>	<p>コロナ禍ではあったが、多くの展示を再開することができた。年度途中からは、地域の方に、自由にギャラリーを見ていただけるように開放することができた。地域との交流が少しずつ復活できている。</p> <p>また、さくら通信を通して学校の取組を知ってもらうことができた。地域の方々からは、生徒の活躍を賞賛する声を聞くことができた。</p>	<p>今後は、防犯対策をしっかりとした上で、コロナ禍以前のように地域の方が、気軽にギャラリーを見ていただき、地域との交流の場にしていきたい。</p> <p>また、さくら通信を楽しみにしていただいている地域の方も多く、次年度以降も継続した発行していきたい。</p>	<p>A</p>
<p>その他 地域連携推進委員会 (11月)</p>	<p>大崎地区に在住で本校の実情に詳しい方々を本校にお招きし、地域連携の在り方を探る。</p>	<p>本校開校当時の様子や取組について聞き、今後の地域連携や学校PRの方について意見を交わし、今後の本校の在り方について助言をいただいた。</p>	<p>本校の授業を参観していただいた後に、委員の方と開校当初と現在を比較し、今の学校に求められているものは何かについて意見交換をすることができた。</p> <p>今後の地域との交流について在り方など貴重な意見をいただいた。</p>	<p>次年度は、社会人聴講生の受け入れが再開する。開校当初の理念を再確認し、現代の社会、生徒層を分析し、地域とともに進化する学校改革を継続して実施していきたい。</p>	<p>B</p>



## 5 事業全体を通じて得られた成果

本校に開校当初からある「さくらギャラリー」を最大限活用することで、生徒が学校に登校したその瞬間から、作品に触れることができる。生徒の感性を深め、登校刺激にもなっていると考える。また、コロナ禍ではあったが、多くの企画を再開できたことで、地域の方との交流も深めていくことができた。社会人聴講生の再開についても、再開を期待している声が多数よせられ、本校に対する関心の高さ、期待の高さを改めて感じることができた。

昨年度は、コロナ禍で実施できない企画があったが、今年度は工夫を凝らすことでほとんど実施することができた。継続して実施することで、本校生徒が地域との交流を通じた社会性の醸成に寄与していると感じる。また、本校の特徴を外部に発信することで地域との交流を進めていく大切な要素となっている。

## 6 事業全体についての学校としての評価

コロナ禍で様々な行事が実施できず学校生活を過ごしてきた生徒たちに、工夫を凝らして多くの企画を実施することができた。本校の今年度の重点目標である『地域社会との「実感と共感」を通じた、より信頼される学校づくり』を達成するためのとてもいい事業となった。また、育成したい資質・能力としている「社会へ旅立てる力」「コミュニケーション力」を身に付けていくためにも、日本ならではの伝統文化を直接体験することで、豊かな感受性の醸成や日常生活における心の余裕につながったことと考えている。

また、さくら通信を通して、定期的に本校の多様な取組に関心を持っていただくとてもいい機会となった。次年度は、社会人聴講生を再開することで地域の「生涯学習の場」としての本校の役割の再出発となる。変動が激しい社会の動向や、生徒の質を考慮し前進し続ける学校として、今後も欠かせない事業であると考えている。

## 7 学校の取組及び成果の公表状況

- ① ホームページ      ② 学校便り等      ③ 発表会等（発表会等名：おおさき万博）  
④ その他

3 令和5年1月22日に開催された「おおさき万博」の一部のブースをお借りして、パキスタン洪水支援募金のポスター展示を行った。本校は、パキスタン、アフガニスタンなど外国籍の生徒が在籍している。生徒から募金活動をしたいという希望があり、文化祭で実施した。そのときの内容をポスターにまとめたものである。その展示のときに、本校のさくら通信を配布したり、新春茶会の説明をしたりすることで、本校の取組みを地域の方々に知っていただくことができた。

4 今年度から開設した田尻支所地域振興課地域おこし隊の丸山氏の協力のもと、地域活性化のための意見交換を実施している。地域の千手観音祭への参加や、文化講演会での交流を通して、本校の取組みを外部に発信している。